

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組
放送日：平成 27 年 3 月 11 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）
（再放送：3 月 15 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 17 回放送 岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション 藤野みどり 所長

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

塩竈 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さて、私たちの暮らすこの一関では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーは医療機関や介護施設の役割、また利用の方法を医療・介護・福祉の関係者と市民が共に理解協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

塩竈 今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー。スタジオには公益社団法人岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション所長の藤野みどりさんにお越しいただきました。藤野さんよろしくお願ひします。

藤野 今日はよろしくお願ひいたします。

塩竈 さて、この訪問看護ステーションなんですけれども、市内には現在どの位の数のステーションがあるんでしょうか。

藤野 一関市と平泉を含めて 11 か所の訪問看護ステーションがあります。

塩竈 その中の 1 つがこの千厩訪問看護ステーションということですね。昨年 4 月 15 日の広報いちのせき I-Style「医療と介護の窓」のところにですね、「訪問看護ステーションを知っていますか」と書かれていまして、市民の方々も利用されている方というのは多分いらっしゃるのかなと思うんですが、どういったことをしているのかということをお聞ひして藤野さん教えてください。

藤野 健康状態の観察はもちろん、食事や排泄のお世話、あとは寝たきりや認知症の方の介護、あとは相談、リハビリテーション、それと最近では終末期の看護ということで、そちらのほうにも関わらせていただいていますし、それに関わって痛みのケアなどを行わせていただいています。

塩竈 さらにお医者さんの指示のもとでの医療処置なども行う場合があるそうなんです。

藤野 先生から時々指示が出るんですけども、ご自宅で点滴をしたり注射をしたり、あとは血液を採ったりということも先生の指示があれば行わせてもらっています。

塩竈 この「医療と介護の窓のコーナー」をやっていると、病院の先生にもお話を聞く機会というのが大変多かったです。最近では、病気になって病院に行くと、その治療が終わってから、今度はご自宅でそういった治療に関わるっていう方々って結構多いようなんです。そうすると、病院の中で行われていた様々な医療行為というのを自宅でそれをやっていかなければいけないという場合がありますので、そういった時のサポートをしてくださる人がいるのは非常に心強いです。藤野さんもいろいろな形でそういった患者さんに関わっていらっしゃるのがあると思いますけれども。

藤野 私も病院で働いた経験もあるんですけども、訪問看護に関わらせてもらってもう 10 年以上経つんですが、やはり、ご自宅に伺って、

まず30分なり1時間なり、その方に関われるところ、まず良いかなと思っております。あと自分の判断でいろいろなことを考えたりとかなので、それがちょっと大変だということもいらっしゃるんですけども、その辺のところ、やりがいを感じています。

塩竈 藤野さんがお勤めの千厩訪問看護ステーションにもあるそうなんですけれども、全国各地の訪問看護ステーション、基本的にはその看護職員として働いている方というのは、どういった職種の方々になるのでしょうか。

藤野 看護師はもちろんですし、保健師さん、助産師さんも働いています。あとは、ステーションによっては、理学療法士さんとかリハビリ関係の方もいらっしゃいます。

塩竈 なるほど。その地域、地域でよくある環境であったりとか、こういったところも配慮されて、いろいろ人数だったりとか職種っていうのも色々あるということなんですね。千厩訪問看護ステーション、こちらでは何人体制という形なんですか。

藤野 今、看護師が7名おります。あと事務員が1人ということで8人体制で行っています。

塩竈 今、全国各地です、病院でお仕事される看護の職員の方というのは、人数が大変少なくなっている話を聞きますけれども、訪問看護にあたっている人数というのはどうなんですか。

藤野 訪問看護ステーションもですね、世の中の流れが、病院から在宅にという流れがある中で、訪問看護の依頼が来た時に、やはり人が足りないところのステーションがほとんどです。

塩竈 なるほど。藤野さんは、もともと病院でお仕事をされていたというお話がありましたけれども、これから先、病院での看護師の人数が欲しいということもあるでしょうし、また、訪問

看護という分野でも看護する人材確保というのは大変な問題でもありますね。

塩竈 さて、訪問看護、こちらを利用するとどういった方が来てくださるのかというのは、看護職員の方の職種であったりとか、それから現在の人数などをお話を聞くことができました。さて、では今度です、その訪問介護を受ける側の方なんですけれども、どういった方々になるのでしょうか。

藤野 病気だとか、あとは障害があるために自宅での療養生活のお手伝いを必要とする方ですね。それと終末期の方で、病院ではなくご自宅で過ごしたいという方、あとは、訪問看護は赤ちゃんからお年寄りまで受けられますので、かかりつけの先生が訪問看護が必要だよということで認められた方は、在宅で訪問看護が受けられます。

塩竈 この訪問看護には、どのようなサービスがあるのか、こちらも教えてください。

藤野 訪問看護では、「医療保険での訪問看護サービス」と「介護保険での訪問看護サービス」というのがあります。介護保険で受けられる方は、65歳以上の方が主なんですけれども、医療保険に関しては、先ほど申しましたように、主治医の先生が訪問看護指示書を出していただければ、それこそ赤ちゃんからお年寄りまで受けられるという制度になっております。

塩竈 その療養の状況であったりとか、介護の状況であったりとか環境など、いろいろなところを判断して必要な看護をここでやっていくということなんですね。これは、看護サービスは、時間とかそういうのも決まっているんですか。

藤野 医療保険の場合は、1回のサービス時間ということになりまして、だいたい30分から1時間半位のサービスになります。介護保険の場合は、サービスの時間によって料金が変わってきます、20分未満、30分未満、あとは60分未満、それと1時間半未満というふうなことで、

いくつかに分かれて、あと料金も変わってくるというふうなことであります。

塩竈 その医療行為、医療処置を行っていただいたりとか、それから様々なお世話にあたっていただくというお話が今あったんですけども、実際に看護を受ける方にとってすごく頼りになる存在だなというふうには感じるんですけども、ご家族とかそれから一緒に看護にあっている方からすると大変心強い存在でしょうね。

藤野 そうですね。やはり認知症の方を看ている方は、なかなか頭で分かっている、その行動でその場面がちょっと見れなかったりとか、そういうところがあって「今日こんなことがあったんだよ」とか「昨日こんなことがあって」とお話を家族さんがしてくるということが結構ありますので、私たちも気をつけて声掛けはしているんですけども、家族さんのほうからも、いろいろな話をされる存在になっているのかなというふうに思っています。

塩竈 病院で療養されている間というのは、まさに病気そのものに関しては、お医者さんに相談というのがありますけれども、その治療に実際にあたっていく中での心の不安であったりとか、こういったところを看護師さんに相談する場合というのは、すごく多いのかと思うんですよ。まさに、心の拠りどころと言いますか、そういったお仕事をされていますけれども、訪問看護という形でご自宅にそういった方にやって来ていただいてというのは、これからの時代、本当に支えにする方というのはきっと多いでしょうね。

藤野 そうですね。そういう存在になれるように日々努力していきたいなというふうに思っています。

塩竈 先ほどもお話にありましたけれども、この訪問看護にあたる要員というのが、どうしても少なくなっているということですけども、これから先この要員というのをどんどん増やしていくためにはですね、やはり、その仕事のす

ばらしさと言いますか、こういったところもみなさんにも感じてもらえたら良いなと思うんですが、訪問看護ステーションには、例えば、インターンシップとかで学生さんたちが立ち会うことってあるんでしょうか。

藤野 はい。学生さんが時々いらっしゃいます。

塩竈 そうですか。実際に仕事を目の当たりにして感想というのは、どういうのが届きますか。

藤野 学生さんは本当に新鮮な目でまず見てくれて、そしてやっぱり一人一人とじっくり関われるということがすごく良いみたいで、だいたい学生さんの最後の感想としては「訪問看護にいつか関わりたい」というふうに言われて実習を終了する方が多いですね。

塩竈 なるほど。こういったところから、またやりがいというのが生まれてきたり、また、今の藤野さんにもそのお仕事をされていて感じる事など伺いましたけれども、こういった声がいろいろな皆さんの元に届くところで、さらに自分もそういったところに関わっていこうかなとか、さらに、この制度を利用して家庭の中でもこういうケアをしていくというところまで考えていこうかなという方、どんどん増えてくるのかなと思います。この訪問看護ステーションなんですが、お伺いしましたら、ほとんどのステーションが、24時間の連絡体制ということなんです。

藤野 はい、そうですね。

塩竈 夜間にも、電話相談とかもあるんですか。

藤野 あります。熱が出たりとか、痰が絡んだりということは、24時間関係なくありますので、だいたい家族さんが対応できるんですけども、どうしても困った時に、やはり相談できる先があるというところでは、その辺は安心していただいているのかなというふうに思っています。

塩竈 病院で治療を受けて、それから在宅でそれを癒していくという流れ、これからもどんどんどんどん広がっていくのかなというふうに思いますけれども、その中で私たちの生活をサポートしてくれる大切な存在なんだなというのが今日は分かりました。

塩竈 さて、藤野さんは、千厩訪問看護ステーションからお越しいただいたんですけども、この訪問看護を受けよう、それから利用するためにはどうしたら良いのかという、そのお問い合わせなんですけども、どなたにしたら良いのでしょうか。

藤野 もしケアマネジャーさんが付いていらっしゃる方は、まずケアマネジャーさんに相談してもらいたいなと思います。あとは、かかりつけの先生、保健センターだとか、そういうところに相談していただいても良いですし、あとはいろいろな地域に訪問看護ステーションがありますので、直接そちらに電話で相談していただいても良いかと思います。

塩竈 乳幼児から高齢者まで、お医者さんが訪問看護が必要と認めた全ての人ができるという、そういった制度があります。介護保険の認定を受けた方はもちろんなんですが、医療保険でも利用することができるということですから、今お話がありました担当のケアマネジャーさん、それからかかりつけのお医者さん、さらにお近くの訪問看護ステーション、こちらの方にもお問い合わせいただければと思います。今日は千厩訪問看護ステーションから所長の藤野みどりさんにお越しいただきました。藤野さん、ありがとうございました。

藤野 どうもありがとうございました。

塩竈 藤野さんとお話をしていて感じるところがあるんですけども、今手元にですね、在宅医療と訪問介護のあり方検討委員会が出した「訪問看護活用ガイド」というのがあるんですね。その中に、訪問看護師の方の声というのがありまして、病院と違って訪問介護の分野では、

ご本人そして家族の希望に寄り添った看護ができること、大きな力になれることを魅力に感じて訪問看護の道を選ぶ方というのがとても多いそうですね。お話を聞いている中でやっぱりそういったところから、いろいろ学ばれたりとか、それから誇りを持って仕事をされているというのが言葉の端々から伝わってきたのが印象的でした。この他にも訪問看護の仕事をしている方は、例えば、利用されている方から逆に優しさをいただいたと経験することもあったり、生き方を何か教わったり、それ自体が元気の基にも繋がっているということに気づく、そんな方々も多いようです。訪問看護を利用することによって、在宅療養に関する心配、不安が軽減するだけでなく、病状の悪化を防ぐ、こういったところにも繋がっていくのかもしれないですね。今日は千厩訪問看護ステーションの所長藤野みどりさんにお話を伺いました。

塩竈 さて、医療の体制の充実、地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に様々な取り組みに関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。